

【現状把握】「丁寧さ」が壁になっている可能性を疑う

届かない「丁寧」な言葉

強い気持ちで書いている。なのに、反応が止まる。

現在の詰まり位置

- 丁寧に整えているのに、反応が完全に止まっている
- 通知を何度も確認するが、手応えが一切ない
- 自信が削れ、「届かない感覚」だけが蓄積していく

整えすぎて、 動きが消えている。

- 読み手が入り込むための「共鳴の入口」が存在しない
- 「今、何を感じたか」という感情の位置が見えない
- 綺麗な言葉で包み、今の感情が不在になっている

原因の核心

最初の接点が欠落 / 距離の未計測

受け手が入り込む余地のない「完成品」を投げてしまっています。

「正しさ」や「丁寧さ」は武器にならない

整えるほど、 遠ざかる。

× 捨てていい誤解

努力や気持ちの強さが足りない
文章力や丁寧さが足りない
伝達の「量」を増やせば解決する

○ 新しい基準

「正しさ」を捨てて「瞬間」を置く
不完全なままで「入口」を創る
設計を変えて「接続」を優先する

丁寧な説明よりも、一つの共鳴が重要です

整えた言葉は、相手の心に引っかかる「トゲ」を削ってしまいます。

「感情が動いた瞬間」を置く

【起点】 何を感じたか、から開始する

↓

【固定】 主語を「体験者」で固定する

↓

【接続】 結論を最後へ、問いかけを配置

読み手の立ち位置を想定し、状況を一行で補足する。

「自分のことだ」と思われる感覚

- 完全に止まった反応 → 読者が足を止める・引っかかる
- 途中で離脱される → 「それ私」という共感が発生
 - 一方的な伝達 → コメントが具体的・対話的に変化
- 発信への恐怖心 → 読まれる流れが見え、心が軽くなる

冒頭に「感情」を足す

1. 直近の投稿（または下書き）を一つ開く
2. 冒頭に「正直～」 「怖かった」などの感情を置く
3. その時の状況を一行だけで説明する
4. 読み手を「特定の誰か一人」に設定する
5. 最後に「問いかけ」を一つ置く
6. 一番言いたい「結論」を一番後ろへ移動させる

共鳴点の「セルフ点検」

点検項目

- ✓ 入口の欠落を放置していないか？
- ✓ 感情の位置が明確に見えるか？
- ✓ 丁寧すぎて動き（葛藤）が消えていないか？

得られる効果

反応ゼロ状態からの確実な脱却
感情位置の特定による信頼獲得
再現性のある「共鳴構造」の固定

毎回この手順で確認し、構造への再接続を繰り返してください。

感情の位置を定め、入口を拓く

「入口」を、入れ替える。

過去投稿を一つ選び、冒頭の入口を修正する
三日間、感情の位置を記録し続ける

必要なら深掘り。不要なら、自分のペースで前進。